



「いのちの章典」と「理念」～考え方と活かし方～

班長交流会 & 医療福祉生協学校②開催



3月9日(土)中央コミュニティセンターで、日本医療福祉生協の藤谷専務を迎えて、班長交流会と医療福祉生協学校を合同で行ないました。



今回は、学習講演とし、藤谷専務から「いのちの章典」と「医療福祉生協理念」について考え方と

活かし方について講演していただきました。藤谷専務は、今なぜ「いのちの章典」をつくるのかという点で、社会が大きく変化し、医療福祉生協の果たす役割が高まっていること、組合員と職員の共通の指針が求められてことなどが話されました。また、医療福祉生協が医療や介護の事業利用だけでは、存在意義を発揮できない中、元気な人が多数の生協として、くらしに役立つ健康づくり、まちづくりの生協だという押し出しが重要であるとのべました。

参加された組合員の感想は、「生協の組織の今後の広がりをどのようにしてすすめていくか。組合員ふやしの基本

の観点を、相手の立場にたって活動すし、もっと腰をすえて取り組む方向が大切だと再確認できた。」「仲間ふやしで組合員活動に参加してもらい、健康づくり、まちづくりのために、いっしょに参加してもらおうという目的で仲間を増やさなければいけないことが、よくわかりました。」「病院を利用することが中心というような考え方で仲間ふやしをしていたが、健康づくり、町づくりの観点から、その人の得意を生かした活動ができるような活動をと、いいヒントを得たと思います。」「仲間ふやしに関する話は大変興味深く、これからは、何度も訪問し、要求をつかみ、その人の役割をつくる活動を進めて行きたいと思いました。そのための「いのちの章典」づくりは大切だと思いました。」などの感想が寄せられました。今回の集会には、班長さん等98名が参加しました。



力を合わせ、原発なくそう!!!

福島を忘れない! 原発ゼロ和歌山3・10フェスティバル

3/10(日)和歌山城西の丸広場で、「福島を忘れない! 原発ゼロ和歌山フェスティバル」が開催されました。あいにくの天候(風雨寒)でしたが、1000人以上が集まり、原発をなくそうと元気あふれる集会になりました。会場には京都大学原子炉実験所の小出裕章氏も、駆けつけ、「福島を忘れてはいけない。力を合わせて原発をゼロにしよう」とあいさつしました。また、福島から避難されている二人の方から、「ひとりではなく、支えあって和歌山で生活している」「原発に生きがい奪われた。」など原発事故から2年経った今、改めて原発をなくそうと訴えました。医療生協、民医連、民医労の三者で、テントを借り、約200食のぜんざいを販売しました。多くの組合員さんも立ち寄っていただき、ぜんざいを食べていただきました。

天候が悪く、企画していた風船も、水滴などでとぼず、せっかく書いていただいたメッセージを見知らぬ地へ飛ばすことができませんでしたが、元気に原発なくせのアピールができました。

